

2024年 4月 30日

2023年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 NPO 法人アマフエショナル TAMA
代表者・役職名 氏名 代表理事 木村和雄

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

23年度夏季、秋季「地域寺子屋&子ども食堂事業」

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

NPO 法人「アマフエショナル TAMA」は地域社会において働く意欲と能力を持ちながら働く機会に恵まれない主婦、高齢者、障がい者を応援します。私の長男は生まれつきの重度の障がい者で周囲の献身的で多岐な介護で今も元気で生活しています。法人として15期なりますが約30人の会員と共に一貫して恵まれない子供たちを応援して来ました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

このコロナ禍の中で子どもたちは地域での居場所を求めています。その居場所としてひとり親家庭、貧困家庭の子どもたちを中心に学習支援寺子屋を夏季及び秋季に実施しました。内容は・自学自習の補助、教科書、宿題の補助などです。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

ひとり親家庭、不登校、学力不足で悩んでいる子ども達(小、中学生)を対象に学習支援を目的とした寺子屋を実施しました。場所は公営の文化センターは申し込みが多く、新町自治会集会場を中心に学習支援だけでなく子ども達とフレンドリーな教室として子どもの悩みなどを一緒に考える場となりました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果について・・・6か月で月4回の開催、24回開催しました。延べ167名参加でした。23年度は府中市の寺子屋開催団体が連絡会を立ち上げ6団体が公立小、中学校に府中市教育委員会の協賛のもと、23年9月に「子どもの学び・居場所今地域で出来ること」24年2月には「セミナーパート2」を開催しました(資料添付)。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

いま、子どもの貧困や不登校の問題が大きな社会問題としてクローズアップされています。これらは親や学校、行政だけでは解決できないと思われます。子ども達が安心して過ごせる居場所づくりと学習支援をこの「府中市寺子屋連絡会」が発足、府中市との協働事業を目標に、更なる継続を目標としています。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



